

文教警察企業常任委員会資料

令和8年7月23日

教育委員会

I その他報告事項

- 「宮崎県立学校教育改革実行計画（仮称）」の策定について・・・3
- 県内の不登校児童生徒支援について・・・・・・・・・・・・・・8

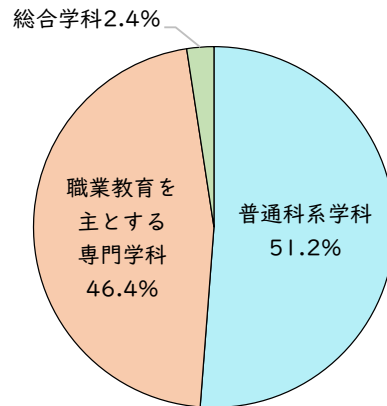
「宮崎県立学校教育改革実行計画（仮称）」の策定について 高校教育課

Ⅰ 現状と課題

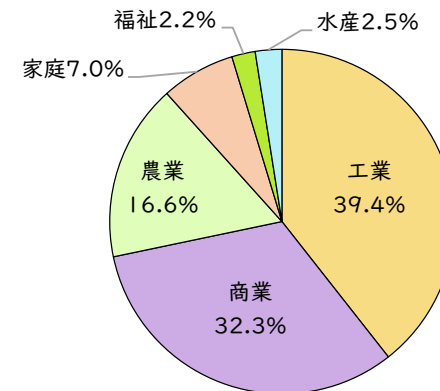
（Ⅰ）県立学校の現状（令和８年５月１日現在）

- 【高等学校】
 - 学校数 36校（全日制31校 定時制・通信制2校 全日制と定時制の併置3校）
 - 生徒数 全日制：18,386人 定時制：541人 通信制：1,132人
- 【中等教育学校】
 - 学校数 1校
 - 生徒数 前期課程117人 後期課程99人
- 【県立中学校】
 - 学校数 2校
 - 生徒数 358人
- 【特別支援学校】
 - 学校数 16校
 - 児童・生徒数 高等部：492人（専攻科を除く） 幼稚部：15人 小学部：537人 中学部：364人

令和８年度 県立高校（全日制）の学科別在籍者割合

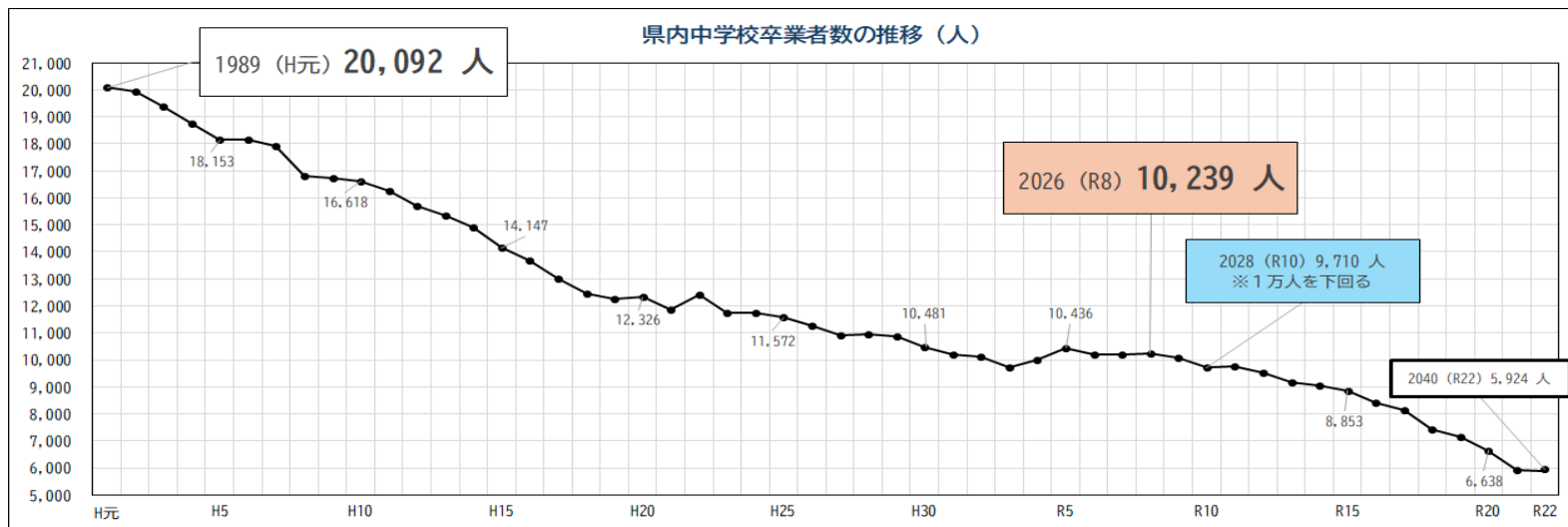


令和８年度 県立高校（全日制）職業教育を主とする専門学科における学科別在籍者割合

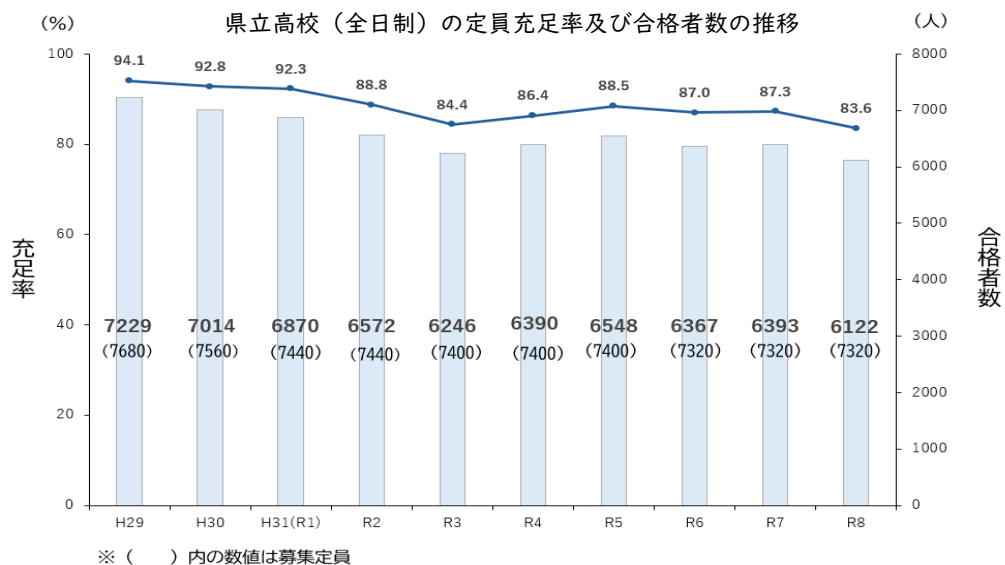


(2) 中学校卒業者数の減少と定員充足率の低下

- ・ 中学校卒業者数は2040年には6,000人程度になると想定（現在のおよそ4割減）
- ・ 定員充足率は低下傾向にあり、令和8年度の定員充足率は83.6%



卒業者数は、各年3月の数値 2026年（R8）までは実績値 2027年（R9）以降は推計値

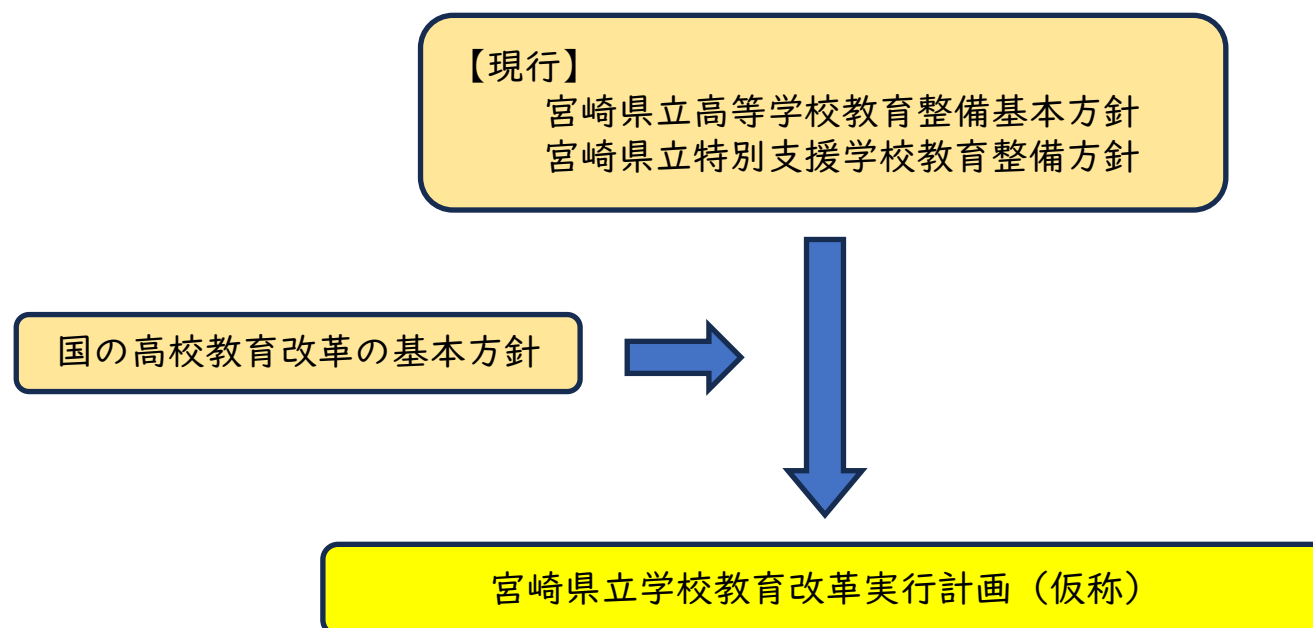


2 策定の趣旨

2040年（令和22年）を見据えた国の教育改革の動向や本県の中学校卒業者数の見込みを踏まえ、中長期的な視点で、今後の県立学校の教育改革の基本的な考え方を示すもの。

現行の「宮崎県立高等学校教育整備基本方針」及び「宮崎県立特別支援学校教育整備方針」の内容を吸収・発展させ令和8年度中に策定する。

【策定イメージ】



3 計画の概要

(1) 計画期間

2027年度（令和9年度）から2040年度（令和22年度）まで（14年間）

(2) 計画の基本的な考え方

県立学校として全ての県民に等しく、生徒のニーズ等を踏まえて学びの機会を保障し、将来にわたり持続可能な形で教育の質を維持・提供する。また、少子化や社会構造の変化を見据え、学科改編や特色ある学びの提供等を通じて、地域と社会が求める人材を育成するための県立学校の教育体制を構築する。

(3) 計画の主な内容（案）

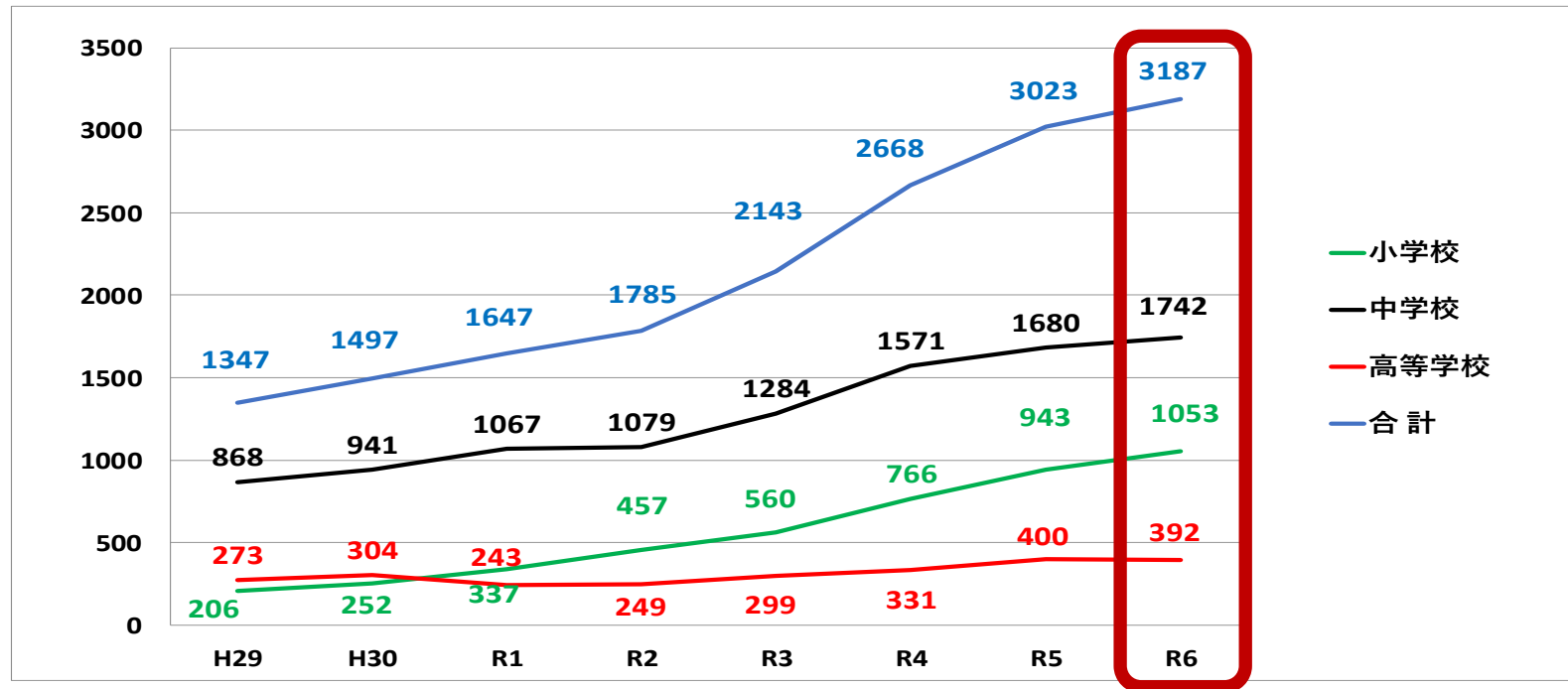
- ・ 本計画について（策定の趣旨、期間等）
- ・ 県立学校の現状と課題（中学校卒業者数、県立学校在籍者数等）
- ・ 県立学校改革の方向性（学科の在り方、規模の適正化等）
- ・ 計画の推進体制

4 今後のスケジュール（予定）

- 令和8年 7月 県議会常任委員会（策定について報告） 今回
宮崎県高等学校等教育改革推進会議（骨子案）
9月 県議会常任委員会（骨子案報告）
10月 宮崎県高等学校等教育改革推進会議（素案）
11月 県議会常任委員会（素案報告）
パブリックコメントの実施
令和9年 1月 宮崎県高等学校等教育改革推進会議（最終案）
2月 定例教育委員会へ付議
3月 県議会常任委員会へ報告

不登校児童生徒数の推移（本県公立学校）

（H29～R6 県内公立学校）



小・中学校は不登校児童生徒数は増加しているが、増加率は低下。
高校の不登校生徒数は減少（R5：400人→R6：392人）。

文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」

COCOLOプラン (令和5年3月31日)

不登校のすべての子どもに対し、校内の居場所設置や多様な学びの場の確保、チーム学校での支援、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりを推進するための対策。

ポイント

- ・ 不登校により学びを止めない
- ・ 登校という結果のみを目標とせず、状況に応じた支援を実施
- ・ 「休養の必要性」を認め、本人の意向を尊重



不登校児童生徒への支援

全ての児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、**社会的自立**を目指すことができるための支援

困難課題対応的生徒指導

課題早期発見対応

課題予防的生徒指導

課題未然防止教育

発達支持的生徒指導

- ・教育支援センター（適応指導教室）の活用
- ・校内教育支援センター（校内SSR）の活用
- ・フリースクール等民間団体との連携
- ・オンラインの活用

- ・SCやSSWを活用した「チーム学校」としての児童生徒・保護者支援
- ・「各種教育相談窓口（電話・SNS・ネット）」の活用

- ・「SOSの出し方に関する教育」の実施

- ・生徒指導の視点を意識した授業実践
- 「こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業」の取組
- ・「ひなたの学び」、「スクールワイドPBS」
- ・「いのちを大切にする週間」における実践

児童生徒の状況に応じた多様な居場所づくり

学校に行きづらさを感じている児童生徒の**多様な居場所づくり**が必要！



家庭から
出ることが難しい児童生徒

遠隔授業等
※コネクトオンライン



家庭から出ることができるが、学校への登校は難しい児童生徒

県教育支援センター
「コネクト」
※校外学習の様子



フリースクール等
民間団体
※民間団体の学習室



市町村教育
支援センター
※宮崎市まなびバ!等



学校に登校できるが、
教室に入ることが難しい児童生徒

校内教育支援センター
(校内SSR)



学びの多様化学校とは

不登校の状態にある児童生徒の実態に配慮し、
文部科学大臣の指定を受けて「特別な教育課程」を編成・実施できる学校

カリキュラム（教育内容）の柔軟性

- － 授業時間の短縮。
- － 独自の授業の実施。（プロジェクト型学習など）
- － 年間授業時数の削減。（標準Ⅰ，0Ⅰ5時間 → 770時間程度への短縮など）

学習環境（場所・時間）の柔軟性

- － 登校時間の調整（午後登校など）や、別室登校、オンライン授業の併用。
- － 少人数編成や、リラックスできる専用スペースの設置。

サポート体制の充実

- － 教員だけでなく、SCやSSWとの密な連携。

宮崎県内の「学びの多様化学校」

延岡市立南浦中学校熊野江分教室（令和6年開校）



校時程	
登校バス	(8:34 着) 給食センター前
個別学習の時間	9:00～ 9:10
1	9:15～10:05
2	10:15～11:05
3	11:15～12:05
昼食	12:15～12:30 (弁当)
昼休み	12:30～12:55
4	13:00～13:50
セルフマネジメント	13:55～14:05
下校バス	(14:15 発) 給食センター前

宮崎市立ひなた中学校（令和7年開校）

都城市立あやめ野中学校（令和8年開校）

学びの多様化学校 児童生徒数の推移 (各年度５月１日時点の人数)

学校名	設置 年度	R 6	R 7	R 8
延岡市立南浦中学校熊野江分教室	R 6	11人	13人	13人
宮崎市立ひなた中学校	R 7		46人	43人
都城市立あやめ野中学校	R 8			31人

延岡市立南浦中学校 熊野江分教室の取組

プロジェクト学習

（自分たちの思いを実現しよう）の様子

○ 企画・計画・運営をすべて生徒が考え、生徒自らが実施する取組

芸術の時間（新設教科）



①手作りのプレゼント交換とお菓子パーティーの様子



②大型テレビ画面で、テレビゲーム大会を実施



つながりのイメージ

